

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	熊本駅高架下商業施設増築	階数	地上1F	
建設地	熊本県西区春日三丁目601-1の一部	構造	RC造	
用途地域	商業地域、近隣商業	平均居住人員	300 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	4,745 時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年6月 予定	評価の実施日	2017年5月16日	
敷地面積	17,315 m ²	作成者	近藤良彦	
延床面積	4,700 m ²	確認日	2017年5月16日	
		確認者	近藤良彦	

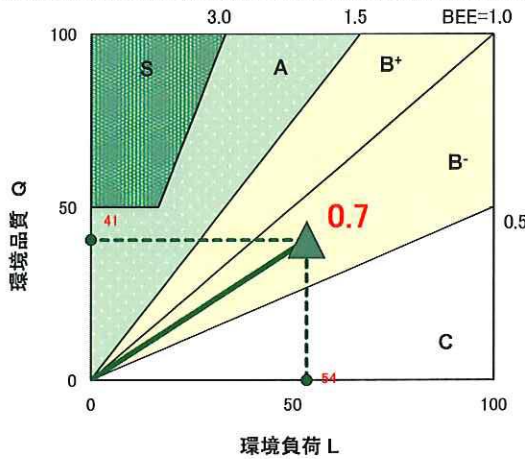
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.7

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

95%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

68

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点

71.0

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

55.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

68.2

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本駅高架下商業施設増築	階数	地上1F
建設地	熊本県西区春日三丁目601-1の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、近隣商業	平均居住人員	300人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,745時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年6月 予定	評価の実施日	2017年5月16日
敷地面積	17,315 m ²	作成者	近藤良彦
建築面積	4,700 m ²	確認日	2017年5月16日
延床面積	4,700 m ²	確認者	近藤良彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.8

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.5

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 68

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 71.0

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 55.0

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75.0

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 68.2

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
熊本駅高架下商業施設増築

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境			0.40		-			2.7
1 音環境		1.4	0.15					1.4
1.1 騒音		1.0	0.40					
1.2 遮音		1.0	0.40					
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	3.0				
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0				
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0				
2 温熱環境		2.4	0.35					2.4
2.1 室温制御		2.6	0.50					
1 室温		3.0	0.50	3.0				
2 外皮性能		1.0	0.17	3.0				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33					
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0				
3 光・視環境		3.0	0.25					3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50					
1 昼光率		3.0	-	3.0				
2 方位別開口		3.0	-	3.0				
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0				
3.2 グレア対策			-					
1 昼光制御		3.0	-	3.0				
3.3 照度		3.0	-	3.0				
3.4 照明制御		3.0	0.50	3.0				
4 空気質環境		3.7	0.25					3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質	居室の建材はF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	3.0				
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.50	3.0				
2 自然換気性能		3.0	-	3.0				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0				
4.3 運用管理		4.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御	喫煙ブースを設置	5.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					2.9
1 機能性		2.9	0.40					2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30					
1 広さ感・景観		1.0	0.33	3.0				
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33					
3 内装計画	インテリアパースを用いて検討	5.0	0.33					
1.3 維持管理		3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30					2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性			2.6	0.20		-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	
3 電気設備			3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備			1.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.1	0.30		-	3.1
3.1 空間のゆとり			3.4	0.43		-	
1 階高のゆとり	階高6.591m		5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ			1.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			-	-		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.57		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	2.8
LRI エネルギー			-	0.40		-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20		-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI 非住宅 0.84 住宅(専有部) 0.83		4.0	0.50		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)	BEIm0.84		4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)						-	
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1 モニタリング			3.0	-		-	
4.2 運用管理体制			3.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水	節水器具を使用		4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60		-	2.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が分別可能		4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	-		-	
3 冷媒			3.0	1.00		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.5
1 地球温暖化への配慮	換算スコア3.2		3.2	0.33		-	3.2
2 地域環境への配慮			2.0	0.33		-	2.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-		-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.50		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.50		-	
3 周辺環境への配慮			2.3	0.33		-	2.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40		-	
1 風害の抑制			1.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制			-	-		-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

「熊本を誇れる駅舎として」

- ・駅舎デザインと統一感のある外装色を使用した。

Q1 室内環境

内装材についてF☆☆☆☆の利用

Q2 サービス性能

インテリアパースを用いて内装を検討

Q3 室外環境（敷地内）

庇空間の形成（東側駅前広場側）

LR1 エネルギー

設備機器の高効率化に配慮

LR2 資源・マテリアル

節水器具を使用

LR3 敷地外環境

特に無し

その他

特に無し

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本駅高架下商業施設増築

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		68
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				71	0.40	28.40
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				55	0.20	11.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				68.2	0.20	13.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数